

2014年3月30日 受難節第四主日礼拝

説教 実を結ぶ人生

ヨハネの福音書 15章 1-10節

【主イエスの最後の説教】

ヨハネの福音書 13-16 章は、主イエスの最後の説教。愛の説教であり、長い説教です。13 章から 16 章まで続く。主イエスは時間のある限り語りたかったからです。今日も主イエスのこの愛のことばを聴きましょう。主イエスの教えを学ぶというよりは、主イエスの愛そのものに包んでいただきましょう。

【ひとつの誤解】

「わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き」(2)とあります。ここは「イエスさまを信じていても、それだけではだめなんだ。実を結ばなければ、取り除かれてしまうのだ」と思うところ。けれどもそれは誤解です。主イエスがほんとうにおっしゃりたかったことは、「人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます」(5)。ここにあるのは「実を結べ」という命令ではなく、「実を結ぶ」という約束です。私たちのすることは主イエスにとどまることだけです。そうすれば、主イエスが私たちの中にとどまってくださって、実を結ばせてくださる。主イエスが実を結ばせてくださるのです。

【実を結ばせてくださる主イエス】

ナチスに反対して招集され、捕虜になった牧師たちの中に、シェーンヘルという人がいました。彼は捕虜収容所の中で、献身者をつくり、志願した若者たちを集めて神学校をつくりました。戦後、「私はこういうふうに働いた。成功だった」と報告した彼に、先輩の牧師が、「若い兄弟よ、キリスト者に成功はありません。キリスト者は実を結ばせていただくだけです」と戒めました。実を結ばせてくださるのは主イエス。私たちにできることは、ただ主イエスにとどまることだけ。シェーンヘル牧師はこのときのことを忘れず、やがて東ドイツのプロテスタント教会全体の指導者として豊かに実を結びました。

【すっぱいぶどう】

イザヤ書には、豊かな実を結ばなかったぶどうのことが出て来ます。「(神さまは) 甘いぶどうのなるのを待ち望んでいた。ところが、酸いぶどうができてしまった」(5:2)。これは南王国ユダの人々について言われたこと。ユダが神さまにとどまらなかったからです。でも、神さまは、実を結ばなかったユダの人々を惜しまれます。実を結ぶまで見捨てません。神さまは痛みながら、人々を愛し続ける。そして、ついに神のひとり子が十字架にかかってくださいました。私たちが豊かに実を結ぶために。自分たちではすっぱいぶどう

しか結ぶことができない私たちが、甘いぶどうの実を結ぶことができるために。

【愛の実を結ぶ私たち】

主イエスのとどまる者が結ぶ実は、愛の実です。「わたしの愛の中にとどまりなさい」(9)とあるとおりです。主イエスは私たちを愛してくださる。愛とはたいせつにすること。主イエスの大切な私たち、主イエスのたいせつなお互い。私たちのために何もかも捨ててしまった主イエス。そんな主イエスの愛の中にとどまるなら、私たちは、豊かに実を結びます。愛の実を結んで、愛し合うことができるのです。

【教会で実を結ぶ】

私たちは愛することにしばしば失敗します。けれども、教会は愛する練習をする場所。安全な場所です。世の中では、なにかことが起ると、それを事件にしてしまいます。あの人にこんなことを言われた、あんなことをされたという話になります。けれども、教会はそうではない場所。ここは主イエスの愛の腕の中にある安全な場所なのです。そこで、赦しあい、とりなし合い、たしなめ合うことに練達していくことができる。主イエスの腕の中という安全な場所で私たちは豊かな実を結ぶことができます。昨日より今日はもっと豊かに、今日より明日はさらに豊かに。そして永遠に生きる私たちは、どこまでも豊かに。